

第42回環境審議会議事要旨

日 時 令和4年10月12日（水）
午後2時00分から3時30分まで
会 場 秋田市本庁舎5階第3、4委員会室

1 出席者

(1) 秋田市環境審議会委員（15名中10名出席）

菅原拓男委員、菅原勝康委員、石場加奈栄委員、岩田豊人委員、
上野智明委員、杉山秀樹委員、高橋敦子委員、竹田勝美委員
津村守委員、福岡真理子委員

(2) 秋田市環境部

黒澤亮環境部長、中川裕行環境部次長

環境総務課：村上義紀課長、原田浩地球温暖化対策担当課長、
長内克衛新エネルギー担当課長、
赤津順子課長補佐、畠山高朗副参事、齋藤正美主席主査、
藤田佑介主席主査、田近真由子主査、伊藤雅人主査、
塚本晃太主任、細川みずき主任、向川秋紀技師

環境都市推進課：伊藤妙子課長、佐藤俊主席主査

環境保全課：小野文彦課長、作田立子課長補佐、佐藤善克主席主査、
大淵啓矢主任

2 次 第

(1) 開 会

(2) 環境部長あいさつ

(3) 会長あいさつ

(4) 職員紹介

(5) 議 事

秋田市環境基本計画の中間見直しについて

その他

(6) その他

(7) 閉 会

黒澤環境部長、菅原会長のあいさつ、環境部職員の紹介に続き議事に入る。

秋田市環境基本計画の中間見直しについて、環境総務課より説明を行い、質疑が行われた。

最後に、大気環境測定局廃止の答申について、環境保全課より報告を行った。

【質疑内容】

5 (1) 秋田市環境基本計画の中間見直しについて

委員	P 5 8 の表、水質汚濁事故件数の目標が 5 0 % と削減とあるが、0 ではなくあえて 5 0 % と書く意味があるかなという気がしたが、事情があるのか。同じような表現が P 6 0 悪臭に係る苦情件数にもあるが少々違和感がある。
環境保全課	0 % にできればいいが、啓発や指導により水質汚濁事故については極力 0 に近づけたいという努力をしている。現実的に事故が全く起こらないというのはなかなか難しいので全く達成できない目標よりは少しでも実現可能な目標を立て徐々に減らしていきたいという考えで 5 0 % ということで設定した。
委員	目標と現状の数字を見たときに現状が果たしてどれだけ達成できているか数字をみると気になる。いくつある中の 5 0 % なのか情報がほしい。 達成はいいが、未達成の場合に何に関してはここまではできている、ここまでしかできていないという情報を出してほしい。単純に未達成だと 0 か 1 になってしまうので達成率でよろしいかと思う。
環境総務課	一部未達成というときに何をもって達成なのか未達成なのか分かるような形で P D C A サイクル等で報告の際に留意したい。
会長	I S O 1 4 0 0 0 シリーズを導入するときにもこういう問題はあったと思う。
委員	目標のディメンジョンと評価のディメンジョンは違ってる。
会長	表現の仕方に工夫をお願いしたい。
環境総務課	評価のところを気をつけたい。
委員	P 1 3 の C O 2 の C O が全角になっている。通常環境系の資料では半角表記がほとんどである。全角にする意味はあるのか。 小学校の高学年あるいは中学生であれば秋田市に関して環境系の学習で基本計画を目にする機会があると思うので、なるべく合わせた形の表記にしてもらえればありがたい。

P 8 7にマイバックやマイボトルを持ち歩く、使い捨てスプーン・ストローは断るなど、使い捨てという言い方をしているが、国のほうでは今はワンウェイプラスチックというのが主流になってきているのでキーワードに関して世の中に出回っているようなキーワードを意識して使っていただくとありがたい。

環境総務課
委員

最新の状況を踏まえて必要なところは修正していきたい。

P 6 2の生物多様性地域戦略について県内の市町村のなかで最初に出したということは非常に素晴らしいと思う。

ただ、一番スタートから言うと国家戦略がある。それで県の地域戦略があって市の地域戦略がある。その中で、国家戦略では例えば農水省はこれに対応、国交省はこれに対応と全部対応が出るはずである。

第一点としては国家戦略のように対応する市の部局がわかるようにしてほしいし、市の担当部局がこれに基づいてこういうことをやるというのがないと説得力がないのではないか。

第二点目は国家戦略であれば最初から10年ごとなどに新たなものを書いているが、秋田市の地域戦略として、これを環境基本計画に内包という話があったが、環境基本計画の計画期間ごとに地域戦略は新たに作る理解でいいのか。

環境総務課

一点目の他の部局がどうなってるかについては明示はしていないが、P 6 4施策1の④のように「分野横断」と記載があるところが他の部局との連携の事業ということになっている。実際に評価していただく際には各部局の名前が出てくる。

二点目については国の戦略との計画期間の考え方ということだと思うが、P 4に関係計画との関連図を出している。市役所の仕事は秋田市の総合計画という基本的な計画にぶらさがって分野別の計画として動いており、計画期間は基本的には秋田市の全体像に合わせてこの計画も必然的に動いていく。まずは10年という計画期間に沿って取り組んでいくことを考えている。

環境部長

2点補足がある。まず計画期間について、P 5にあるとおり、この生物多様性戦略も秋田市環境基本計画の一部であり、平成30年から令和9年までの10年間の計画期間となっている。もちろんその間に大きな状況変化もしくは国の法律が変わった、国の戦略が変わった等の状況変化についてはすぐに対応し、その間の評価結果についても不断の見直しを図っていきたい。

もう一点、市役所の中のどの部署が何をやるかについては、P 6 6 から P 6 7 のところ施策 1 に 7 つの具体的な取組が書かれている。

例えば②の「秋田市緑の基本計画に基づいて、都市公園の整備に努めます。」というところでは建設部の公園課が担当しており、ここには明示していないが、この計画が完成して来年度から新たにスタートとなったときには推進状況等を評価していく場面があり、その中ではこの取組についてはどこの部署がやっているかを明示しながら説明してまいりたい。

委員 そのあたりきっちり対応してもらいたい。

委員 P 2 1 の平成 2 5 年、2 6 年に環境基準を達成していないが、概ね良好としている理由は何か。原因を一言いれてはどうか。

環境保全課 原因については分かっておらず、概ね良好とする表現はわかりにくいことから、記載する表現を検討したい。

委員 P 1 8、1 9 のごみの分別について、秋田市では、溶融炉であるため何でも混ぜて大丈夫という認識が住民の中で高い中、将来的に何種類くらいの細分別化を想定しているのか。

環境都市推進課 P 1 9 のオについてはプラスチックごみの分別をこれから検討していくところではあるが、市民に分かりやすいようにどこまでをプラスチックとして分別していくか今後検討を進める必要があるという表現になっている。そのほかの金属類や空きびん、空き缶の細分別化については、今のところ変更する予定はない。

今後プラスチックごみの分別が始まれば、その点を市民に理解しやすいように検討していかなければならないと考えている。

環境部長 P 1 9 の下から 2 行目のところ、分別収集のところに「プラスチックの」分別収集等の実施に向けてと文言を追記してより分かりやすくさせていただきたい。

委員 コラムのところに大変いいことを書いているのでここにだけ納めるのではなく広報あきた等に載せていただければよりいいのではないか。

委員 P 6 7 の施策 3 野生生物との適切な関係の確保の③に「貴重な植物の不法採取は行わない」と植物についてのみ記載されているが、最近ため池で大変なことが起きており、ゲンゴロウを捕って売ったり、タナゴ類も関東から捕りに来るなど酷い状況にある。例えば「絶滅の恐れのある野生生物の採捕を行わない」など文章は任せるが、植物以外についても追加をお願いしたい。

環境総務課 委員	<p>植物に限定しないよう表現を改めたい。</p> <p>今回は平成29年の基本計画を修正し、ブラッシュアップすることだと思う。今回修正されているところがメインだと思うが、それ以外のところもすでに導入しているが、計画では導入しませんでしたと記載されたままになっている部分がある。例えば小学校での環境教育、副読本の配布の実施などが導入しませんでしたと記載されたままになっているのはどうなのか。</p>
環境総務課 委員	<p>もう取り組んでいるものもあるので、現状になるべく合わせた形で改訂させていただきたい。</p> <p>ウクライナとロシアの核というものに不安を感じはじめている。有事により市民生活の環境が短い時間で激変する。環境教育等も大事だが、そういったときに先導的に市民を守ってくれるのか不安を感じている。</p>
環境部長	<p>私も最近の情勢を見て非常に不安に思っている。諸外国の脅威については国の防衛から考えていかないといけない。国の防衛となると一義的には国の専権事項となり、我々には国民保護計画という形でおりにてきている。その中で国の役割、県の役割、市の役割が定められている。ミサイルに限らず、大きな災害があったらどうするというようなものも含めて国が中心になって県、市町村といったレベルまで落とし込まれて取り組んでいるところである。まずはそちらのほうに委ねて、ここは狭義の意味での環境分野で検討を進めていきたい。</p>
委員	<p>P97以降の自然環境配慮指針について、黒字と赤字のところで表現が重複しているところがある。概念を整理したほうが良いと感じる部分がある。</p> <p>P98の景観の話について、景観の話をするのであれば景観のところに固めるなど、どこに注意しなければいけないかバラバラになっている印象がある。</p>
環境総務課 委員	<p>具体的に中身をいくつか分類分けし、修正したい。</p> <p>P73に前回申したICTを活用したという文言が入れられて大変良いと思っている。昨年度から子供たちに1人1台タブレット端末が配布され、よく活用されている。今年度になって子供たちの吸収が非常に早く、大人が考える以上にもう慣れて低学年でも自分で検索して調べるなど1人1人の主体的な学習のツールになっている。</p> <p>そういう中で少しずつ課題が見えてきている。</p>

子供たちは大人が考える以上に知的好奇心が高く、検索すると子供たちが本当に必要としている内容のものが少なく、これからは教材の内容の吟味をしていかなければと考えている。

さきほどコラムの話がでたが、まさしくこのコラムが子供たちが欲しいものにつながっていると思う。私自身も前のものと比べてみたが、外来生物と言っていたものが今、外来種というのがわかる。そのわかる、発見するということ自体がつぎの活動につながり子供たちの意欲づけになっていく。そのあたりも吟味してもらいたい。

もう1点、P72の市が実施する環境学習講座の開催回数参加者数について非常に多くなっている。環境学習というのは先生方も関心があり、子供たちも身近に感じていて多くの学校で取り組んでいるのではないかと。目標値が80回になって、2,800人に少し減っているのは多分、児童生徒数の減少を考えてのことだと思うが、実現可能な目標値と思う。よりそういう機会を多く作っていただければありがたい。

環境総務課

教材の充実については子供たちや先生方の意見を踏まえて内容を高めていきたい。目標値についてはメニューの見直し等で順調に増えている現状があるので、引き続き努力して増加の方につなげていきたいと考えている。

環境部長

教材等については何よりもまずその内容が対象となる子供たちにきちんと合っているかということを中心に心がけて作成にあたってまいりたい。

委員

今回は前回の施策に対してどう取り組んでいるのか整理をしたほうが、前を踏まえてということがよりはっきりするのではないかと。

環境総務課

結果や今後どうすべきかの課題については毎年、別の冊子で報告書という形で皆さんにお配りし、会議で報告している。実際は計画にそれぞれの暦年の報告がつくという形になるのでそれとセットで考えていただきたい。

環境部長

P103のPDCAサイクルについて、委員のおっしゃられたことが上から3つめの点検評価というところでチェックする。年次報告書を毎年まとめ、環境審議会の皆様へ報告として意見を伺うことになっている。それを受けてすぐに改善できるものは改善していくという流れになっている。本計画の見直しが一番下にあるが、これは計画期間終了時、もしくはその中間年度の見直しや大きな動きがあったので全体を変えなければいけないといったような必要に応じ

委員
環境総務課
委員

て計画を見直していく流れになっているのでご理解いただきたい。
これまでの年次報告というのは次の冊子の後ろに入るのか。
年次報告は別の冊子になっている。

環境総務課
委員

一般の方が前回の基本計画、これに対しての達成度等の振り返り
を見たうえで次の計画の流れを確認する場合はどうなのか。
ホームページで同じ場所に公開しているのでそちらで確認して
いただくことになる。

P 6 の計画の推進主体、イ事業者の役割について、商工業農林水
産業など全ての事業活動とうたっていたいただいたほうが、市民全員に
関係がありますよという思いで読んでいただけるのではないかと

P 2 0 の下の方の枠の字が見えないので配慮してもらいたい。

P 4 4 の公共交通網の整備拡充について、公共交通網の整備拡充
に取り組むとここで言ってもらいたい。施策の4として追加できな
いか。

P 4 3 のコラム3の①ふんわりアクセラについて、当初は「e-ス
タート」と付いていたのでe-スタートを追加してもらいたい。

P 8 5 の19行目も一緒である。

P 4 7 のコラム6について、表現が市主体になりすぎているので
検討してもらいたい。

P 1 0 1 の推進体制について、P D C Aという言葉でP 1 0 3 に
も計画実施、点検・評価、改善・見直しが出てくるが、P D C Aと
いう概念が少し変わった。一連のサイクルに周りから内部および外
部の課題、市の政策に対して関心を持っている人がどういうことを
考えているのか知ること、利害関係者のニーズ及び期待、市民はど
うしてほしいと思っているのか、小学生はどうして欲しいと思っ
ているのか、そういうのも一覧にして取り込んだ上でP D C Aを回し
てもらいたい。真ん中にリーダーシップがあるがこれは市長である。

資料を机上配布したが、用語の解説が新しくなったので、皆さん
のデザインでいいので新しいものを入れてもらいたい。

会長
委員

最新の用語解説をお願いしたいと思う。

P 2 0 のSDG sについて、17個のゴールは市民が目にしたこ
とがあると思うが、この17個をウェディングケーキにした概念モ
デルのイメージ図がある。それを入れていただくところのゴールの意
図するところ、世界中の誰一人取り残さないというのを市民の皆様
にご覧いただくと基本計画の意味も深く理解いただけるのではないかと

P 3 2 のアプリケーションを使ったスマホで優しい環境配慮行動について、私どものアプリケーションを使いたいマイカップの持参にポイント付与等の新しい視点の環境アクションがあり、ここで新たなエコアクションを発信できればいいと考えているので相談させていただきたい。

3 点目が P 4 7 のコラム 6 について、秋田市では中小事業者に対して手厚い支援をなさっている。秋田市地球温暖化防止センターの方でも今年度省エネ診断、脱炭素診断という言い方をしているが、そこに先着 1 0 件やらせていただくような形でやっているの、ここに限定することなく診断を受けていただいた事業者の皆様になど限定ではない上手な発信をしたほうがいいのではないかと。

環境総務課

津村委員からの表現を変えることについてはこちらで修正したい。

福岡委員からの S D G s のウェディングケーキや省エネ診断の記述も内容をアップデートして盛り込みたい。

会長

学校教育ばかりでなく、その地域の大人、市民教育全体に対しても環境リテラシー、環境保全に関する専門的な知識、が増えて中身が充実してきているので事務局におかれては用語解説を注意して準備してもらいたい。

環境総務課

用語集については 1 2 月末までに作成し、公開前に委員の方にあらかじめ送付したい。

以上